

令和元年度第2回 県と市町村との総合教育懇談会（概要）

日時 令和元年 10月 30日（水）

14時から 15時 30分

場所 長野県庁議会棟 4階 404・405号会議室

<議題：「学びの改革」について>

【松本市教育長】

- ◆ 取組事例を発表していただいた小・中学校は、挑戦的に取り組んでいる。その背景には、今の教育は変わらなければいけない、という共通認識がある。
- ◆ 何故変わらなければいけないのか。日本の教育は明治以来、教え主義と集団主義をずっと続けてきたことに大きな課題がある。
- ◆ 教育を変えるには、常に挑戦的な取組をしていかなければいけない。最終的には、自分はどうしたいのかという子どもを育てることが大事。言われたことは出来るがそれ以外はなかなか動けないということでは、未来を創造する人間にはつながっていかない。
- ◆ 市町村教育委員会も、その視点で具体的に一緒に考えていくことが大事だと改めて感じた。

【松川町教育長】

- ◆ 松川町もいわゆる一斉授業がまだまだ多いが、3年前に配置した臨時の小学校図書館司書が図書館をガラッと変えた。このような方法もあるのかと感じた図書館の例を紹介したい。
- ◆ 小学校全体の図書館の貸し出し冊数と町全体の図書館の貸し出し冊数とほぼ同じとなった。何故図書館が変わったのかというと、子どもたちが図書館を居場所にして生き活きと過ごして欲しい、という司書の願いがあり、色々なイベントを実施した。例えば、クイズや異年齢の子ども同士の読み聞かせ、子どもたちの物語創作など。
- ◆ この司書は、子どもたちの「主体的な学び」とかは全然考えていないが、1日25分の休み時間の中で、この図書館が全ての子どもたちにとって最適な環境になるようにという願いでやっている。同じ視点を学級担任や教科担任が持てば、教室や学校が変わるのではないか。新しいことや特別なことを意識しなくても、今の環境で良いのかと、一人ひとりの先生が自分に問う機会が与えられれば良いと思う。

【小諸市教育長】

- ◆ 共通することは、今のままで良いのか、という基本的なところ。日常的なものは、自分の

立ち位置や状態が見えないことが多い。他の視点が出てきた時に初めて気づくことができる。発表いただいた小・中・高の取組は、今を見返す上で大きな意味があると思う。

- ◆ 一方で、指導要領は戦後最初のものから10年ごとに見直されてきたが、基本になるのは戦後初めての教育観。子どもが主体となるような学習をつくらせたい、子どもが1市民として自立できるような社会を創りたい、という願いがあった。
- ◆ 見直される10年の間で、ある程度の成果と課題を得たころに時代が変わる。その繰り返しがあって、今もその途上にある。新しい視点という話があったが、今までの実践の中にそのような新しい視点は十分にあったはず。その中にも成果と課題もあったのではないか。
- ◆ 全く新しいことを始めるという視点ではなく、今まであったものをベースにしながら、何が今の時代に特に必要なのか、今までやろうとしてできなかったのはなぜか、をもう一度整理してつなげると、今日発表いただいたことが、本当に現場が必要なことだという感覚で捉えてもらえるのではないか。
- ◆ 社会情勢も変わってきている。教師の多忙感や教師が人間として、教育者として自分の教育観を創っていく機会がかつてより少ないと思う。
- ◆ 保護者の受け止めもだいぶ違ってきた。それを前提としながら、過去作ってきたものを現場で更に活かすことができれば良いと思う。

【高山村教育長】

- ◆ 発表いただいた内容は、今まで長野県教育委員会学びの改革支援課が出してきた理念と同じ。今までも、子どもと作る授業や主体的・対話的で深い学び、教師はコーディネーターであれ、といったことは、長野県では努力をしてきたところ。ただ、具体的な個々の内容や手法となると新しい取組になるので、実践をとおして考えていく必要がある。もう一度、今まで長野県でやってきた教育を振り返り、全く新しいものではなく、今までのものを更に色々な方法で実践していくようにして欲しい。
- ◆ 最初の説明にあった「この転換のあり方は一つでなく、各学校が、子どもや地域の実態に応じて様々な方法で取り組むものである。」というのは、非常に同感するところ。

【長野市教育長】

- ◆ 長野県では、今までも発表いただいたような教育理念を目指していたと思うが、現実とマッチしていないところが増えてきている。例えば、子どもたちも多様になって来たり、保護者の子育ての価値観も一律にはなっていない。その中で、子どもたちの育ちをどう支えていくのか、各学校でその理念をどう具現化していくのか。
- ◆ 長野市のある中学校で学級担任固定制を変えてみたり、小学校では教科担任制を始めた

り、異学年の交流の場として遊びの場の工夫をしたりしている。そこで教え合い・学び合いにつながることを期待して、様々な場を用意している。これからは子どもたちが選択できる場が必要になってくると思う。

【長野市長】

- ◆ 時代時代の環境や背景によって教育は変わる。今までは、経済成長や人口増加の中で教育を行ってきたが、過去の日本の教育は、現在の日本の発展に繋がっている点で非常に良かったと思っている。
- ◆ 子どもたちが減少している現在においては、子どもが少ない上に、多様な子どもも増えてきている。そのような中で、学校や先生が変わることは非常に大事なこと。
- ◆ 多様な子どもたちが、将来社会に出て、一人ひとりが社会人として自立できるようになるためには、個々に応じた教育が必要であり、教育が変わっていく局面に来ていると思う。

【大町市長】

- ◆ 発表いただいた小・中・高の取組は、いずれも先進的・先鋭的、そして挑戦的な取組であると思う。この取組は進めていかなければならないと思うが、具体的にどのような手法で、どのように展開していくか、まだまだ未知数の荒野に足を踏み出すような感じがする。
- ◆ 今までの「学び」は、習う・見習うことに原点があった。日本の社会・国づくりも、海外の先進的な事例を受入れ、それに基づいて、それを見習って改良していくことが日本の歴史であったが、現在は、見習う相手や材料がなくなっている。社会が多様化していく中で何を求めていくのか、どこを目指すのか、やはり教育に戻っていくしかないのだと思う。
- ◆ 教育は教育現場でという考えを尊重しても、それだけでは解決しない。その環境を広く整えていかなければ、成果があがっていかないのではないかと。行政全体が一緒になって解決していかなければならない課題であり、地域にとっての課題でもある。
- ◆ どのような教育が良いのかと言えば、課題を乗り越えていける力や人間の総合力を養成していくこと。これは、信州教育の原点にあったこと。長野県の歴史の中にある尊い価値観を大事にしながら進めていかなければならない。
- ◆ 軽井沢西部小学校と風越学園の連携について、子どもたち同士の連携はどのようになるか。また、子どもたちの体を育む面はどのように考えているか、お聞きしたい。

【軽井沢町立軽井沢西部小学校石山れいか教諭】

- ◆ 子どもたちの連携について、風越学園は学校自体を、子どもたち・保護者・スタッフ・地域みなで作ることから始まっていくので、現時点で子どもたちとの連携について決まっていることはない。活動していく中で、子どもたち同士が自然につながっていくのではないかと思う。
- ◆ 子どもたちの体を育む面について、現時点で具体的なものは決まっていらないが、まずは、広大な敷地の中で遊ぶことで体を鍛えていくのではないか。また、子どもたちの中で運動会のようなものをやりたいと話が出た時に、子どもたち同士がどのようにやるのか、何をやるのか考え合う中で、子どもたち手作りのスポーツフェスティバルのようなものが生まれたり、軽井沢ならではの冬の遊びなどが生まれたりしていくのではないかと思う。

【長和町長】

- ◆ 先日、江東区の有明西学園を訪問した。ここは、小中一貫の新しい学校で、児童生徒数は約 800 人。あと 2, 3 年で 1,000 人を超えるとのこと。私が子どもの頃の旧和田村の小・中学校では、約 900 人いた。当時の子どもたちの数とあまり変わらない。今の旧和田村の小・中学校の児童生徒数は、約 80 人。昔に比べ約 10 分の 1 になった。
- ◆ 時代が違う中で、子どもたちをどう教育していくのか。時代時代で教育は変わっていかないかなければならないが、難しいと思う。首長部局では、教育委員会から話のあった学校施設についてこたえているが、それだけでいいのか、という思いもある。

【松川村長】

- ◆ 今の時代にふさわしい教育方針を、学校の先生や教育委員会で考え、示されるのであれば、行政はその方針に従って、財政支援をしていきたい。

【阿部知事】

- ◆ 長野県では「学びの県づくり」を進めている。長野県から、教育の新しいあり方を創っていききたい。
- ◆ 世の中が変化していく中で、今の常識が数年後に非常識になっていることがたくさん出てくるのではないか。子どもたちは、主体性を持って自分の頭で考えていく、自分の力で生き抜いていくことが出来る能力を持たなければならない。子どもたち一人ひとりが多彩な才能を持っているので、出来る限りその力を引き出していききたい。
- ◆ 日本の教育は、戦後、ある意味良い成功モデルとしてあったと思っているが、これから未来に向けて、画一的な教育ではなかなか時代の流れにあわせた人材育成ができにくく

なってきた。

- ◆ まずは、学校の先生にしっかり頑張ってもらい、行政は学校現場の取組をしっかりサポートしていくことが重要だが、全部お任せではなく、世の中の動向や社会のありようは、学校と行政がしっかりコミュニケーションをとって、これからの未来像を共に描きながら、子どもたちの教育、学校のあり方を考えていくことも重要。
- ◆ これまでの既成概念の中で教育を行っていくことではいけない。学校の先生も規制の枠組みにとらわれ過ぎないようにしてもらい、一緒に子どもたちの未来を構想していきたい。
- ◆ 先日、全国知事会で文教環境委員長に就任した。本会議のテーマや意見も踏まえ、全国知事会の中でも議論していきたい。
- ◆ みなさんと一緒に「学びの改革」を進めていきたいので、よろしく願いしたい。

【原山教育長】

- ◆ 発表いただいた小・中・高の取組は、非常に先進的な思いで取り組んでいる。この理念は、信州教育が大事にしてきたものと変わらないと思う。ただし、この理念を具現化する方法論は、時代時代によって変えていかなくてはならない。時代背景も子どもの環境も変わっていく中で、この理念を具現化する方法を常にアップデートしていかなくてはならない。
- ◆ 先進的な取組を行っている皆さんが「学びの改革」に進んでいくことを、県教育委員会としてもバックアップしていきたい。また、首長部局の皆さんにも、その支援を一緒に考えていただきたい。

【轟教育次長】

- ◆ 本日の会議をとおして、「学びの改革」の理念等について、ご理解いただけたと思う。また、様々な面から、首長部局と教育委員会が一緒になって取り組んでいくことが確認できた。これから具体的にどう進めていくか、お互い議論しながら考えていきたいので、よろしく願いしたい。

<その他：公立美術館・博物館における「高校生までの入場料無料化」について>

【轟教育次長】

- ◆ 公立美術館・博物館における「高校生の入場料無料化」については、市町村においても検討いただき、賛同いただける市町村と共に進めていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

<全体を通して>

【大町市長】

- ◆ 子どもの全人的な教育を支えていくには、家庭の機能は極めて重要。ものの考え方や感じ方を養成するのは家庭であり社会全体だと思う。社会全体や生涯学習にも新しい視点を取り込み、活動を展開していく仕組みをつくらないと、学校だけに任せてはどこかで行き詰るのではないか。生涯学習を含め、市町村も一生懸命取り組んでいきたい。